

込んでいきました。

「元気でやっとなるかい。」

「社長、おはようございます。」

従業員とのこんなやりとりも、内田社長にはとても楽しいものでした。しかし、部品作りになると、きびしい目にかかりました。内田社長のナツパ服は、この日もやはり、油まみれになりました。

戦争は、日ごとに激しくなっていきました。食べるものも着るものも足りなくなってきました。そんなとき、内田社長は空を見上げ、急に不安でいっぱいになりました。

（たくさん飛行機が作られているはずなのに、空には日本の飛行機の姿が見られない。）

まもなく、戦争は終わりました。たくさん犠牲者を出し、日本は戦争にまけたのでした。息子をなくし泣き伏す母親の姿を目の前にした時、内田社長は、深い絶望の底につきおとされました。

（おれは、とんでもないことをしてしまった。部品作りに夢中になったばかり